

平成 28 年度事業報告書

平成 29 年 6 月

一般財団法人 出版文化産業振興財団

表 2

目 次

平成 28 年度事業報告	3
平成 28 年度収支報告書及び財産目録	36
平成 29 年度事業計画並びに予算	51
定款	59

平成 28 年度事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)

＜総務関係＞

1. 理事会・評議員会の開催

第 110 回理事会

月日：6 月 2 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 27 年度事業報告案並びに決算報告案、監査報告」

第 2 号議案 「平成 28 年度事業について」

第 3 号議案 「役員の任期満了による改選」

第 62 回評議員会

月日：6 月 21 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 27 年度事業報告案並びに決算報告案、監査報告」

第 2 号議案 「平成 28 年度事業について」

第 3 号議案 「評議員の任期満了による改選」

第 63 回評議員会並びに第 111 回理事会

月日：11 月 28 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 28 年度上期の事業報告並びに収支報告」

第 2 号議案 「平成 28 年度下期事業について」

第 3 号議案 「平成 29 年度事業について」

第 4 号議案 「役員の一部交代」

◆風間賢一郎 理事 → 加藤 悟 理事（中央社 社長）

第 64 回評議員会並びに第 112 回理事会

月日：3 月 10 日 場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案 「平成 28 年度事業報告並びに決算見通し」

第 2 号議案 「平成 29 年度事業計画並びに収支予算案」

第 3 号議案 「評議員の一部交代」

◆古市恒久 評議員 → 森岡忠弘 評議員（大阪屋栗田 執行役員）

＜退任＞ 桑井 健 評議員（日本地図共販 社長）

（以上、役職は当時）

事業報告

1. 生涯学習事業

①第 24 期「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

読書を通じた生涯学習・読書活動の推進のため、随時カリキュラムを更新し、常に「本」「読書」の魅力を掘り下げる多彩な講座内容を提供しています。

新カリキュラムとなって 10 年目の 28 年度も引き続き、監修にライター・書評家の永江朗氏を迎えました。執筆・講師陣には現在第一線で活躍されている方々にご協力いただきました。また、装丁実習などのオプションルツアーは、いずれも定員以上の申込があり、受講生の期待の高さがうかがえました。

平成 28 年 8 月から 29 年 3 月まで、7 ヶ月にわたるレポート作成とスクーリングを経て、3 月 27 日に行われた修了式では、作家の角田光代氏の記念講演（聞き手：永江氏）が行われ、「読書と私」と題して、読書の魅力や自身の読書体験についてお話しいただきました。修了式では、一般社団法人日本雑誌協会 鹿谷史明理事長から激励の祝辞を賜りました。

第 24 期の修了生は 86 名です。新たな JPIC 読書アドバイザーが誕生し、修了生は累計約 2,300 名となりました。（受講料：一般 58,000 円 JPIC 賛助会員 53,000 円）



オプションルツアーの装丁実習

<スクーリング スケジュール一覧>

講座	日程	カリキュラム	講師
スクーリング①	平成 28 年 8 月 26 日 (金)	開講式 総 論 JPIC 概要 開講記念講演 アドバイザー活動紹介	永江 朗 中泉 淳 沼野充義 中根美穂 長崎健一
スクーリング②	8 月 27 日 (土)	グループディスカッション 出版流通 イベント企画	永江 朗 内沼晋太郎
オプションツアー	8 月 28 日 (日)	見学会 (ブックハウス神保町・みわ書房・めぐたま食堂・NADiff・国際子ども図書館)	
オプションツアー	10 月 28 日 (金)	見学会 (印刷博物館・国会図書館・トーハン桶川 S C M センター)、紙芝居講座 (童心社)	
スクーリング③	10 月 29 日 (土)	雑誌編集 印刷 古書	雨宮秀樹 中西秀彦 樽見 博
スクーリング④	10 月 30 日 (日)	古本屋の棚から見た読書術 本のつくりや装丁について 書評の読み方書き方	岡崎武志 岡本幸治 豊崎由美
オプションツアー	平成 29 年 2 月 3 日 (金)	見学会 (しまぶっく&ほんの木) 〃 (教文館&MUJIBOOKS&森岡書店銀座店) 装丁実習 書評講座	永江 朗 岡本幸治 豊崎由美
スクーリング⑤	2 月 4 日 (土)	本の情報収集と検索 書店、本の町づくり	永江 朗 南陀楼綾繁 小張 隆 都築照代
スクーリング⑥	2 月 5 日 (日)	図書館の世界 電子書籍	大串夏身 植村八潮
オプションツアー	3 月 25 日 (土)	見学会 (山陽堂&クレヨンハウス&古書日月堂) 読書会ファシリテーター体験会	永江 朗 中村 謙 細井 聖
スクーリング⑦	3 月 26 日 (日)	乳幼児～児童期の読書傾向 読書の歴史 グループディスカッション	佐々木宏子 津野海太郎
スクーリング⑧	3 月 27 日 (月)	文字・活字文化の振興策 まとめ 記念講演 修了式、懇親会	肥田美代子 永江 朗 角田光代

※スクーリング毎に 10～20 人ずつ「本のはなし」(実習)と「レポートについての説明」
(永江朗氏による)を実施。

＜第 24 期受講生 属性一覧＞

男女計	男性	女性	年代別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
100	10	90	100	0	14	13	24	35	13	1

地域別計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
100	4	7	45	12	2	8	15	2	3	1	1

職業別	図書館	書店	出版社	出版関係	販売会社	公務員
	22	2	5	7	3	4
100	主婦	自営業	教員	学生	会社員	その他
	21	1	3	2	18	12

②「JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)」の活動支援

平成 5 年より開講している「JPIC 読書アドバイザー養成講座」の修了生は、平成 28 年度末で約 2,300 名となりました。修了生は自主運営組織「JPIC 読書アドバイザークラブ (JRAC(ジャラック))」を組織して、精力的に活動しています。平成 21 年 11 月には、読書推進運動協議会創立 50 周年を記念した「野間読書推進特別賞」を受賞しました。

JRAC の主な活動としては、自主グループでの「学習会の開催」、「JRAC 通信の発行」「会員用ホームページでの情報交換」など、多岐にわたります。また全国には、身近な会員のつながりを活かす地域支部があり、現在 15 支部となりました。

JPIC としてもさらに JRAC の活動機会を広げるため、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」での読みきかせ講義の講師、講談社「全国訪問おはなし隊」や「スミセイおはなしひろば」でのボランティア向け学習会での講師など、主催・協力事業での講師のほか、各種団体からの講師派遣依頼や問い合わせにも対応し、おはなし会の読み手も依頼しています。

また、『この本読んで！』では毎号、JRAC 会員がおはなし会プログラムや新刊紹介などを担当し、読者から人気のコーナーとなっています。(JRAC 会員：628 名、28 年度末現在)

③各種読書講習会

JPIC 読みきかせサポーター講習会

読みきかせボランティアの育成を目的として、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」を平成 11 年より開催しています。絵本作家の講演と、JPIC 読書アドバイザーによる実技講習で、すぐ活動に活かせる講習会と好評。リピーターも多く参加しています。平成 23 年度より一般社団法人



人生命保険協会の協賛をいただき、一層内容を充実して展開しています。

(実施：16 ヶ所 参加者：1,474 名、参加費：1,000 円)

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会 場	特別講演講師	申込者数	参加者数
1	6 月 25 日	渋谷区	日本薬学会館 長井記念ホール	山口マオ	214	183
2	7 月 9 日	佐賀市	佐賀県教育会館	いとうひろし	112	103
3	7 月 23 日	仙台市	フォレスト仙台	ひろかわさえこ	113	95
4	7 月 30 日	宇都宮市	栃木県総合文化センター	高畠 純	121	100
5	8 月 20 日	静岡市	もくせい会館	ひろかわさえこ	78	64
6	9 月 11 日	京都市	京都テルサ	とよたかずひこ	203	143
7	9 月 17 日	千葉市	千葉商工会議所	鈴木のりたけ	122	98
8	10 月 15 日	松山市	愛媛県生活文化センター	とよたかずひこ	63	59
9	10 月 22 日	甲府市	山梨県地場産業センター	長野ヒデ子	59	50
10	11 月 12 日	富山市	富山県民会館	ひろかわさえこ	95	86
11	11 月 26 日	岡山市	岡山 コンベンションセンター	いとうひろし	117	101
12	12 月 3 日	下関市	海峡メッセ下関	浜田桂子	67	57
13	12 月 18 日	那覇市	沖縄県青年会館	山口マオ	69	58
14	1 月 14 日	和歌山市	和歌山県 JA ビル	高畠 純	117	91
15	2 月 12 日	熊本市	ユースピア熊本	浜田桂子	77	55
16	2 月 19 日	津市	三重県総合文化センター	長野ヒデ子	172	131
合計					1,799	1,474

読みきかせサポーター実践講座～グループワーク編

21 年度から、読みきかせ活動の経験者を対象にスキルアップのための講座を開催しています。講義とグループワークを行い、おはなし会の運営方法、子どもの読書推進の現状などを幅広く学び、地域の読書推進活動の核となる人材を育成するための講座です（実施：17 会場、参加者：1,957 名、参加費 1,000 円）。26 年度から、グループワ



ーク編として、より参加者間の交流を図る内容に変わりました。また、紙芝居の魅力を学べる紙芝居講座（協力：童心社）も好評です。28 年度は、全国 17 会場で開催。

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会 場	特別講演講師	申込者数	参加者数
1	7 月 10 日	札幌市	札幌国際ビル	藤田浩子	136	125
2	7 月 24 日	広島市	広島国際会議場	佐々木宏子	111	98
3	8 月 6 日	奈良市	奈良商工会議所	藤田浩子	216	192
4	8 月 21 日	金沢市	金沢市文化ホール	阿部 恵	58	45
5	9 月 4 日	徳島市	あわぎんホール	藤田浩子	156	130
6	9 月 25 日	秋田市	秋田県 JA ビル	藤田浩子	126	113
7	10 月 2 日	大阪市	新大阪丸ビル別館	村中李衣	235	178
8	10 月 23 日	岐阜市	サンレイラ岐阜	藤田浩子	143	126
9	11 月 12 日	さいたま市	JA 共済埼玉ビル	阿部 恵	170	135
10	11 月 26 日	福岡市	天神クリスタルビル	村中李衣	106	95
11	12 月 3 日	盛岡市	盛岡地域交流センター（マリオス）	阿部 恵	89	75
12	12 月 11 日	米子市	国際ファミリープラザ	藤田浩子	75	65
13	1 月 15 日	名古屋市	ウインクあいち	阿部 恵	193	135
14	1 月 29 日	長崎市	長崎県建設総合会館	藤田浩子	99	81
15	2 月 19 日	高知市	高知城ホール	藤田浩子	74	50
16	2 月 25 日	つくば市	つくば国際会議場	阿部 恵	129	101
17	3 月 5 日	千代田区	一橋大学一橋講堂	佐々木宏子	307	213
合 計					2,423	1,957

平成 28 年度末で「サポーター講習会」は累計 433 回、延べ参加者 41,319 名となりました（「JPIC 読みきかせサポーター講習会」、「読みきかせサポーター実践講座～グループワーク編」のほか過去開催の「読書サポーター講習会」、「子どもの本講習会」を含みます）。

作者と語ろう！

21年度から始まった中高生を中心とした10代向けの読書会は、人気の作家の一冊の本について意見を交換し合い、作品への理解を深め、読書の幅を広げることを目的として開催しています。

二部構成で、第一部は課題図書を中心に、自由に本の話をする読書会、第二部は、作家の講義と質疑応答としています。毎回、作家との会話を楽しみにしている参加者が多く、熱心にメモを取り、質問をする様子が見られました。



松岡佑子さんを囲んで

■共催：朝日新聞社

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	作家	申込者数	参加者数
1	9月4日	大阪市	ハービス PLAZA 会議室	柚木麻子	30	25
2	11月27日	東京都	東京堂ホール	松岡佑子	58	44
3	2月12日	広島市	広島国際会議場	知念実希人	32	26
合 計					120	95

ゆかいに漱石～100年読まれ続ける魅力を探る～

文豪・夏目漱石没後100年を記念し、多様な分野の専門家に漱石の魅力を語っていただく講演会を全国4カ所で開催いたしました。出演者は、作品の魅力に加えて、各専門分野の視点から多様な漱石の姿を映し出しました。



■共催：朝日新聞社、岩波書店

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

幅広い年齢層が集まった熊本会場

	日程	開催地	会場名	ゲスト	申込者数	参加者数
1	7月18日	新宿区	早稲田大学	茂木健一郎	1,367	1,123
2	8月27日	熊本市	熊本県立劇場	姜尚中・西川美和	1,054	825
3	11月6日	大阪市	ツイン 21MID タワー	夏川草介	413	320
4	12月18日	千代田区	JPタワーホール&カンファレンス	齋藤 孝	911	650
合 計					3,745	2,918

④さまざまな層への読書アプローチ

「辞書を読む」プロジェクト

25年度より「辞書・日本語の魅力」を積極的に発信する「辞書を読む」プロジェクトをスタートさせ、店頭活性化、読書推進へとつなげています。

第5回目となる書店店頭での「辞書を読む」ブックフェアでは、新たに朝倉書店が協賛に加わり、辞書出版社を中心とした出版社13社の協賛、取次会社の協力のもと、全国書店でフェアを開催いたしました。昨年に引き続き、特別協力店、一般店という2つの形態を設け、各書店の希望に合わせた開催を可能にしました。特別協力店は店頭でフェアを行う事を条件に、朝日新聞での告知紙面に店舗名を掲載。拡材も簡易的な一般店用、配布拡材のある特別協力店用と内容を分けて作成。さらに、今年は2016年放送のTVアニメ「舟を編む」とコラボレーションし、拡材にアニメのキャラクターが登場しています。



子どもの参加者で賑わった深谷圭助さんの会

連動企画としては、昨年に引き続き、書店を対象とした「飾りつけコンクール」を実施し、新たな取り組みとして言葉の意味を考える「語釈コンテスト」（アニメ Blu-ray が賞品）や、学者芸人サンキュータツオさんと声優の澁谷梓希さんの対談動画のYouTube 配信などを行いました。また、子どもゆめ基金助成事業として全国で関連イベントを開催しました。

■協賛：朝倉書店、岩波書店、旺文社、KADOKAWA、学研、くもん出版、三省堂、集英社、小学館、大修館書店、日本漢字能力検定協会、ベネッセコーポレーション、光文社

■特別協賛：大日本印刷

	日程	開催地	会場名	講師、登壇	参加者数
1	8月21日	名古屋市	名古屋市公会堂	山本康一	22組45名
2	10月1日	墨田区	KFC Hall	雲田はるこ サンキュータツオ 三浦しをん	365名
3	3月4日	足立区	シアター1010	深谷圭助	197名
4	3月20日	千代田区	東京国際フォーラム	金田一秀穂	96名
5	3月25日	新宿区	紀伊國屋書店本店	ベネッセコーポレーション	37組79名

2. 調査研究事業

「JAPAN LIBRARY」事業の一環として実施。

※P.21 ⑥内閣府 国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力をご参照ください。

3. 情報提供事業



「JPIC NEWS LETTER」の発行

賛助会員の皆様に毎月1回、財団事業の報告のため「JPIC NEWS LETTER」を発行しています。掲載内容についてのお問い合わせ、財団運営に対するアドバイスをいただくなど財団事業へ反映させています。28年度中に8号を発行し、通巻185号となりました。

JPIC ホームページ

財団事業の活動を幅広く紹介し、活動スケジュールなどをいち早く提供するため平成10年2月よりホームページを公開しています (<http://www.jpica.or.jp/>)。

JPIC 事業だけでなく、本に関するイベント情報も掲載。特に4、5月の訪問数が多く、年度当初に公開する「JPIC 読書アドバイザー養成講座」など講習会予定をホームページで確認する方が増えています。

また、講習会・イベントの参加申込ツールとしてwebとの連動が好調です。web申込者には「JPIC 読書推進メールマガジン」を配信し、全国のボランティアに講習会やイベント情報等を随時発信しています。(28年度末 メールマガジン読者：12,777名)



季刊誌『この本読んで！』の発行

JPICの読書推進運動への協力者との情報交換・情報提供のため、季刊誌「この本読んで！」を平成13年11月に創刊（事業協力：博報堂）。28年度に創刊60号を迎えました。

絵本や読みきかせ活動の情報を中心に、〈JPIC 読書アドバイザー〉選・おはなし会プログラムや毎号 100 冊の新刊絵本の紹介など、おはなし会に役立つ多彩な内容を見やすいカラー誌面で構成しています。毎号の表紙と中綴じ絵本は絵本作家の描きおろし作品を使用。また、人気の作家のエッセイや、読者から要望が多かった発達障害についての連載も掲載中です。

56 号からは、メディアパルに発売代行を委託し、書店でも販売してより多くの読者の手元に届けられるようにしました。

読書ボランティアの購読とともに、公共図書館・学校図書館からの購読が多く、9,500 部発行しています。



59号



60号



61号



62号

発行形態	発行：年 4 回（5 月、8 月、11 月、2 月） 形態：A4 変形・88 ページ	
掲載記事	59 号 2016 年夏号	特集：生誕 100 年 瀬田貞二のまいた種／ 夏休みは絵ずかんで好奇心が躍りだす！ こんにちは！絵本作家さん 鈴木のりたけさん
	60 号 2016 年秋号	特集：片山健のまなざし／ 人生の先輩たちと絵本を読む こんにちは！絵本作家さん ヨシタケシンスケさん
	61 号 2016 年冬号	特集：渡辺茂男の世界／ 児童書店が選ぶクリスマスに贈る絵本 こんにちは！絵本作家さん いわむらかずおさん
	62 号 2017 年春号	特集：新しい一歩を踏みだす子どもたちに手渡す本／ 2016 年 心に残った絵本 こんにちは！絵本作家さん きくちちきさん
購読料	・定期購読（4 冊）：4,320 円（送料無料・税込） ・バックナンバー：1,200 円（送料・税込）	

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

書店も図書館もない地域に読書機会を提供する「地域読書環境整備事業」で、自治体の

モデル読書施設開設・運営に協力しています。

これまでの設置は、5市町村で、大分県耶馬溪町「わかば」（平成4年5月開設・平成20年3月31日閉店）、岩手県大船渡市「ブックワールド椿」（平成4年10月開設・平成23年3月閉店、開設時は三陸町）、北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」（平成5年10月開設）、福島県飯舘村「ほんの森 いいたて」（平成7年2月開設、平成23年6月15日休業）、長野県東御市「ブック童夢みまき」（平成8年7月開設、開設時は北御牧村・市町村合併により平成23年度で閉店）です。北海道礼文町の「Book 愛ランドれぶん」は、平成25年10月に開設20周年を迎えました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故により全村避難していた飯舘村は、平成28年6月に内閣府から避難指示解除時期の通達を受け、翌年3月31日の解除日に向け帰村準備が進んでいます。JPICは引き続き、読書環境づくりに協力しています。

②東淀川区絵本読み聞かせ事業

大阪市東淀川区からの受託事業として、25年度から開始し、4年目を迎えました。当事業では、大阪府書店商業組合とおはなしボランティア「とことこ」・JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）関西支部・JPICの4者と東淀川区が協働し、地域における子どもたちの読み聞かせ体験の機会を数多く作り、継続させることにより、家庭での読み聞かせの定着と、親子のふれあいの場を増やすことを目的としています。

28年度は、①地域の登録ボランティアの養成と派遣、②事業で活用する寄贈絵本の募集（「絵本バンク」）③主催イベントの実施、④区内各地域での主体的な読み聞かせ活動の促進、⑤一般区民向けの読み聞かせ普及活動などに力を入れました。

平成29年2月12日（日）には、「第4回 東淀川えほんまつり」を開催しました。絵本作家 三浦太郎さんによるワークショップ、近畿地区で活躍する講師によるわらべうたや読み聞かせの時間、絵本展、区内子育て支援施設の活動報告などを行い、区の内外からの多数の来場者が、絵本の世界を楽しみました。



登録ボランティアによる、乳幼児健診時の読み聞かせ



三浦太郎さんによるワークショップ

	日程	イベント	会場	参加者数
1	7月30日	一般向け絵本読み聞かせ講座	区役所	45名
2	8月30日	第2回読み聞かせ活動交流会	区役所	20名
3	10月20日	シニアのための読み聞かせ講座	区役所	28名
4	11月7日	ざぶとん読み研修	区役所	24名
5	12月10日	第3回読み聞かせ活動交流会	区役所	9名
6	2月12日	第4回東淀川えほんまつり 三浦太郎さんワークショップ 岩出景子さん・手あそび 絵本展ほか	区民ホール	延べ500名

- 登録ボランティア数…76名
- ボランティア派遣回数…67回 / 子ども 2,096名、大人 2,181名参加（延べ数）
- ボランティア向け養成講座…8回、92名参加
- 絵本バンク総数…1,481冊 / 貸出 31回、914冊
- 区内各地域でのミニ絵本展…8回、339名参加

③「上野の森 親子フェスタ 2016」の開催

「2000年子ども読書年」を記念して開催した「上野の森 子どもフェスタ」、翌年から「上野の森 親子フェスタ」として拡充開催しています。平成28年度は、主催三団体のもと、小峰紀雄（子どもの読書推進会議顧問）運営委員長が統括する運営委員会を組織し、開催し（開催：平成28年5月3日～5日）、売上の一部を東日本大震災及び熊本地震の被災地の子どもたちの読書環境を支援する活動に充当しました。

■主催：子どもの読書推進会議、日本児童図書出版協会、
一般財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）

■後援：国立国会図書館、経済産業省、厚生労働省、文部科学省、
国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）、東京都教育委員会、台東区
国際子ども図書館を考える全国連絡会、公益社団法人全国学校図書館協議会、
公益社団法人読書推進運動協議会、一般社団法人日本国際児童図書評議会、
一般社団法人日本雑誌協会、一般社団法人日本出版取次協会、
一般社団法人日本書籍出版協会、日本書店商業組合連合会、
一般社団法人日本児童出版美術家連盟、一般社団法人日本児童文学者協会、
一般社団法人日本児童文芸家協会、公益社団法人日本図書館協会、
文化産業信用組合、公益財団法人文字・活字文化推進機構、
日本図書普及株式会社、ヤングアダルト出版会、読売新聞社

■協力：上野の山文化ゾーン連絡協議会

■協賛：公益財団法人住友生命健康財団、ALSOK

上野恩賜公園中央噴水池広場を使用し、68 者・57 テントの出展にて「子どもブックフェスティバル」を実施いたしました。同会場では常時、「全国訪問おはなし隊」（協力：講談社）キャラバンカー前特設会場やイベントテントにて出展各社協力によるおはなし会や紙芝居、出展者ブースでは絵本作家のサイン会などが行われ、親子連れに人気でした。

3 日間、晴天にも恵まれ、売り上げは 3,165 万円超と盛況となりました。

同時開催で、東京都美術館講堂・国立国会図書館国際子ども図書館研修室を会場に 3 つの講演会が行われ、約 500 名の親子・読者に読書の魅力やおはなしの楽しさを伝えました。

■出展者一覧 68 者（50 音順）

あかね書房	あすなろ書房	アリス館	いかだ社	一声社
今人舎	岩崎書店	WAVE 出版	絵本塾出版	絵本の家
えほんの杜	仮説社	学研プラス	金の星社	くもん出版
クレヨンハウス	好学社	佼成出版社	講談社	交通新聞社
国土社	子どもの未来社	ゴブリン書房	小峰書店	さ・え・ら書房
朔北社	視覚デザイン研究所	集英社	小学館	少年写真新聞社
新日本出版社	瑞雲舎	鈴木出版	誠文堂新光社	世界文化社
全国農村教育協会	大日本絵画	大日本図書	玉川大学出版部	汐文社
童心社	徳間書店	西村書店	日本児童図書出版協会	農山漁村文化協会
のら書店	パイ インターナショナル	版元ドットコム LLP	BL 出版	PHP 研究所
ひさかたチャイルド	評論社	ビリケン出版	風濤社	福音館書店
復刊ドットコム	フレーベル館	文溪堂	文研出版	保育社
ポプラ社	ほるぷ出版	ミキハウス	ミネルヴァ書房	民衆社
リトル・モア	理論社	ロクリン社		



■講演会

日程	タイトル	出演者（敬称略）	申込数	参加数
4 日 AM	「一人一人がみんなたいせつ ～絵本に託す願い」 （於：東京都美術館）	くすのきしげのり （児童文学作家）	578	155
4 日 PM	「絵本とマジックと音楽の世界」 （於：東京都美術館）	大友 剛 （ミュージシャン・ マジシャン・翻訳家）	1,418	230
5 日 AM	「戦争っておもしろい？ 平和ってつまんない？」 （於：国際子ども図書館）	アーサービナード（詩人） さくまゆみこ（翻訳家）	395	128
計			2,391	513

④「書店大商談会」への協力

前年度の好評を受け、9 月 6 日、札幌市・札幌パークホテルにて、第三回「北海道書店大商談会」を開催しました（出展社：107 社 106 ブース、来場書店人数：203 名、商談成立：826 件、16,441,273 円）。

前日にトーハン会・中央会が、当日には日販会がそれぞれ北海道総会を開催し、書店・



会場での投票で第一回「北海道ゆかりの本」大賞が決定

出展社が当商談会に参加しやすい環境を整えるなど、まさに、道内出版業界挙げての一大イベントとなりました。各ブースで熱心な商談が行われたほか、今回は「北海道書店マップ」を出展社に配布したことで、来場書店が道内のどのエリアから参加しているかがわかりやすくなり、商談の際の話題作りとともに広い北海道をアピールすることができました。

■主催：同実行委員会

■実行委員長：中尾邦幸・マル五中尾書店代表取締役社長 事務局協力：JPIC

10 月 4 日、東京ドーム・プリズムホールにて、第七回「書店大商談会」を開催しました（出展社：237 社・250 ブース、来場書店人数：740 名、商談成立：4,205 件、94,909,288 円）。

今回は一つの挑戦として、本会とは別に、10 月 20 日講談社にて「コミック分科会」を開催しました（出展社 21 社、来場書店人数：233 名、商談成立：699 件、10,971,636 円）。

本会と分科会の両方にコミック出版社が出展することで、現場のコミック担当者に来場していただきやすくなり、活気のある商談ができました。

■主催：同実行委員会（各販売会社書店会、各販売会社、日本児童図書出版協会、日本書店商業組合連合会、東京都書店商業組合、日本出版取次協会）



大盛況のコミック分科会

■実行委員長：矢幡秀治・真光書店代表取締役社長事務局協力：JPIC

関西では11月8日、大阪市・グランフロント大阪にて、「BOOK EXPO 2016 秋の陣 ～活かせ！書店力～」を開催しました（出展：233社、237ブース、来場書店：1,043名、商談成立：5,831件、98,007,713円）。



六回目を迎える「BOOK EXPO」は、過去最高の出展社数で書店人を迎えました。毎年恒例の著者サイン会やトークイベントのほか、「西日本POP王決定戦」やワークショップなど、普段の店頭で活かせる技を学ぶイベントも実施。また、各ブースや休憩スペースでも熱心な商談が行われ、国内最多の書店人が集う、盛況な商談会となりました。

■主催：同実行委員会 実行委員長：堀博明・堀 廣旭堂専務取締役 事務局協力：JPIC

⑤東日本大震災被災地支援

◆福島県飯舘村支援

原発事故により全村避難している福島県飯舘村に対して、読書環境の充実のための支援を続けています。

内閣府は平成28年6月に、飯舘村に避難指示解除時期を通達しましたが、避難地域での定住など、家族が世代ごとにばらばらに生活している状況の中、引き続き子育て世代の支援事業に力を入れています。

また、新生児に読みきかせ用の絵本をプレゼントする「ほんの森 ファーストブック」事業も継続して行っています。JPICは、28年度、56名に112冊の絵本を提供しました。

5. 受託事業・業務等

①読書普及活動協力事業

読書普及活動の活性化に向けて各社が取り組む各事業に対し、「JPIC 読書アドバイザー」「JPIC 読みきかせサポーター」「地元の読書サークル」にボランティア参加の募集を呼びかけ、読みきかせを開催する会場への読み手のコーディネートを行っています。

ア) 全国訪問おはなし隊

講談社が創業 90 周年読書推進事業として平成 11 年 7 月よりスタートさせた「全国訪問おはなし隊」は、平成 28 年度 9 巡目を順調に走行しました。全国の保育園、幼稚園、小学校、図書館、公民館、児童館、書店などをキャラバンカーで巡回し、地域の読書ボランティアの協力による絵本の読みきかせを通じて、子どもたちに本との出会いを提供しています。(28 年度：1,248 会場 累計実績：20,617 会場)

イ) おはなしマラソン

日本出版販売は、子どもたちに物語の楽しさを伝え未来の読者を育てていこうという試みから、書店読みきかせ会「おはなしマラソン」を平成 11 年 10 月より、全国で開催しています。JPIC では、ボランティアコーディネートの役割を担っています。(28 年度協力 7 店舗、累計実績：700 書店)

ウ) 取協読書推進事業「読み聞かせ会」

日本出版取次協会は、平成 12 年秋に創立 50 周年記念行事として「読み聞かせ会の開催」を実施しました。平成 12 年度からの成果を踏まえて本年度も「読書推進」「書店店頭での活性化・増売」「第 4 土曜日は、こどもの本の日」の拡充のため、書店における読み聞かせ会を開催しました。(期間：平成 28 年 12 月 17 日～平成 29 年 2 月 5 日の毎週土・日曜日、JPIC コーディネート担当実施書店：52 書店)

②「スミセイおはなしひろば」への協力

公益財団法人住友生命健康財団は、平成 13 年度より、読書を通した子どもの健全育成を目的として、子どもたちが「おはなしや本の楽しさ」に出会う機会をつくる「スミセイおはなしひろば」を実施しています。

その一環である「おはなしひろばキャラバン」は、希望する保育園・幼稚園に、オリジ

ナル絵本をプレゼントし、大型絵本や紙芝居を交えたおはなし会を届けるものです。読み手に地域の読みきかせサークルをコーディネートしておはなし会を開催。保護者や地域の方のご参加も見られ、家族・地域間のふれあいのきっかけをつくる役割も担っています。

28年度は2地域（9月福島県 郡山市・福島市、11月愛媛県 松山市・伊予市）で、7,634名の園児が参加しました（28年度実績：106施設、累計実績：1,961施設）。

③朝日新聞社への協力

◆「オーサー・ビジット・プロジェクト」

「オーサー・ビジット」は、朝日新聞社の読書推進活動として14年目を迎え、これまでに全国の小・中・高等学校380校へ訪問をいたしました。

子どもたちに人気の作者が教室を訪問し、作者独自のユニークな授業や生徒との会話により、読書意欲を喚起することを目的としています。



山崎直子さんのビジット 撮影：御堂義乗

平成28年度は、ベルマーク運動に参加している学校に費用を一部負担いただくベルマーク版も含め、全国6校に訪問し、子どもたちの笑顔あふれる授業を展開しました。

JPICは事務局として協力し、応募校受付や作家と学校の訪問スケジュール管理・旅程作成などの役割を担っています。

※ベル＝ベルマーク版3回

	訪問日	訪問地	学校名	作家名
ベル	10月25日（火）	香川県	香川県立善通寺養護学校	尾木直樹 （教育評論家・法政大学教授）
ベル	10月28日（金）	長野県	長野市立安茂里小学校	長谷川義史（絵本作家）
1	11月19日（土）	愛媛県	済美平成中等教育学校	森 絵都（作家）
ベル	11月22日（火）	神奈川県	横浜市立別所小学校	山崎直子（宇宙飛行士）
2	12月16日（金）	広島県	広島県立尾道東高等学校	原ゆたか （児童文学作家・画家）
3	1月20日（金）	山形県	西町立川西中学校	池上 彰（ジャーナリスト）

④「第50回造本装幀コンクール」への協力

一般社団法人日本書籍出版協会、一般社団法人日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」は、50回目を迎えました。

「第 50 回造本装幀コンクール」（募集期間：平成 28 年 1 月 29 日～4 月 8 日）は、145 者 332 作品の応募がありました。5 月 18 日に審査会を行い、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、東京都知事賞をはじめとする各賞（全 22 賞）を決定しました。入賞作品及び全出品作品は第 23 回東京国際ブックフェア



（9 月 23 日～25 日、東京ビッグサイト）内の特設ブースにて展示され、9 月 24 日には同ビッグサイト内会議棟にて 50 周年記念トークショー（模擬審査会）および授賞式を開催しました。また、入賞作品は、ドイツのライプツィヒで開催される“世界で最も美しい本コンクール”に日本を代表して出品され、第 50 回受賞作品の中から、『21 世紀スポーツ大事典』（大修館書店）が栄誉賞を受賞しました。すべての受賞作品は、平成 29 年 10 月の法兰克福ブックフェアで公開展示されます。

⑤生命保険協会 読みきかせによる“家族のきずな”推進活動

生命保険協会は、平成 20 年度より、「読みきかせを通じた“家族のきずな”推進活動」を展開し、一般公募による絵本コンテストや施設・団体への絵本寄贈を行ってきました。28 年度は、第三次 3 カ年計画の 3 年目として、JPIC 読みきかせ講習会への協賛と読みきかせボランティア団体の支援のため「“家族のきずな”読みきかせ会セット」の頒布を行いました。

⑥内閣府 国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力

平成 26 年度に内閣府で開始した JAPAN LIBRARY＜日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業＞に、発行元兼事務局として参画しています。文化のみならず、政治・外交・思想・社会・科学技術・自然科学など幅広い分野における日本の多様なノンフィクション作品を英訳出版し、より深い日本理解の促進を図る事業です。対象書籍は、各界各分野の第一人者である民間有識者 10 名からなる選定委員会にて選ばれます。

28 年度も、NTT アドと合同で事務局として事業の進行を担うとともに、JPIC は版元となり、JAPAN LIBRARY シリーズ第三弾として、3 月 27 日に 14 タイトルを翻訳出版しました。発行書籍は、50 カ国 1000 カ所以上の大学図書館を中心とした研究機関、公共図書館等へと寄贈しました。

28 年度 JPIC 発行書籍

Bushido and the Art of Living: An Inquiry into Samurai Values

原書：『日本人の知らない武士道』 アレキサンダー・ベネット（文藝春秋）

The Entrepreneur Who Built Modern Japan: Shibusawa Eiichi

原書：『渋沢栄一—社会企業家の先駆者』 島田昌和（岩波書店）

Global Class Japanese SMEs

原書：『世界に冠たる中小企業』 黒崎誠（講談社）

The Happy Youth of a Desperate Country: The Disconnect between Japan's Malaise and Its Millennials

原書：『絶望の国の幸福な若者たち』 古市憲寿（講談社）

Human Resource Development in Twentieth-Century Japan

原書：『増補 学校と工場—二十世紀日本の人的資源』 猪木武徳（筑摩書房）

An Introduction to Yōkai Culture: Monsters, Ghosts, and Outsiders in Japanese History

原書：『妖怪文化入門』 小松和彦（KADOKAWA）

Japan's Wooden Heritage: A Journey Through a Thousand Years of Architecture

原書：『日本木造遺産—千年の建築を旅する』 藤森照信／藤塚光政（世界文化社）

Myth and Deity in Japan: The Interplay of Kami and Buddhas

原書：『神と仏の出逢う国』 鎌田東二（KADOKAWA）

Perspectives on Sino-Japanese Diplomatic Relations

原書：読売新聞政治部による日中関連 3 冊の合本。読売新聞政治部（新潮社）

Self-Respect and Independence of Mind: The Challenge of Fukuzawa Yukichi

原書：『独立自尊—福沢諭吉の挑戦』 北岡伸一（中央公論新社）

Soetsu Yanagi: Selected Essays on Japanese Folk Crafts

原書：『柳宗悦コレクション 2 もの』 他所収 柳宗悦（筑摩書房）

The Self-Defense Forces and Postwar Politics in Japan

原書：『戦後政治と自衛隊』 佐道明広（吉川弘文館）

Toward the Abe Statement on the 70th Anniversary of the End of World War II: Lessons from the 20th Century and a Vision for the 21st Century for Japan

原書：『戦後 70 年談話の論点』 21 世紀構想懇談会（日本経済新聞出版社）

Unsung Heroes of Old Japan

原書：『無私の日本人』 磯田道史（文藝春秋）

上記タイトルと過去2年分を合わせると合計24タイトルとなりました。特に海外の大学から、日本研究を始めたばかりの学生たちが有効活用できると、好評です。また、一般読者からの「読みたい」という声に応え、書店での販売も本格的に開始しました。国内外のより多くの読者の手に届くよう、電子書籍版の発行しています。



平成28年度発行ジャパンライブラリー・シリーズ

さらに、当事業で翻訳した以下2タイトルは、大学でのテキスト採用に強い海外の出版社と協力し、発行しました。

28年度海外の出版社からの刊行

The History of US-Japan Relations: From Perry to the Present

Palgrave Macmillan 刊

原書：『日米関係史』 五百旗頭真 編（有斐閣）

Japan-China Relations in the Modern Era

Routledge 刊

原書：『日中関係史』 国分良成／添谷芳秀／高原明生／川島真（有斐閣）

その他、著者イベントや学会への出展も積極的に行いました。9月には、ルーマニア・ブカレスト大学で行われた EAJRS（日本資料専門家欧州協会）年次総会にブース出展、11月には米国3大学（ペンシルバニア大学、ジョージワシントン大学、オハイオ州立大学）にて著者講演イベントを開催、また2月には米国ボルティモア州にて国際研究学会（ISA）年次総会に



ジョージ・ワシントン大学での著者講演会

ブース出展、3月にはカナダ・トロントで行われたアジア学会年次総会にブース出展しました。また10月に、イギリス・ロンドンにて、当事業へ協力いただいている出版社とミーティングを行うとともに、当シリーズ取扱書店を視察、その後、ドイツ・フランクフルトブックフェアに参加、海外の出版社からの発行に向けて、複数社とミーティングを行いました。さらに、書籍の寄贈先でもあるケルン日本文化会館を訪問、日本文化発信について情報交換するとともに、現地での書籍活用の様子を見ることができました。

スケジュール1

スケジュール2

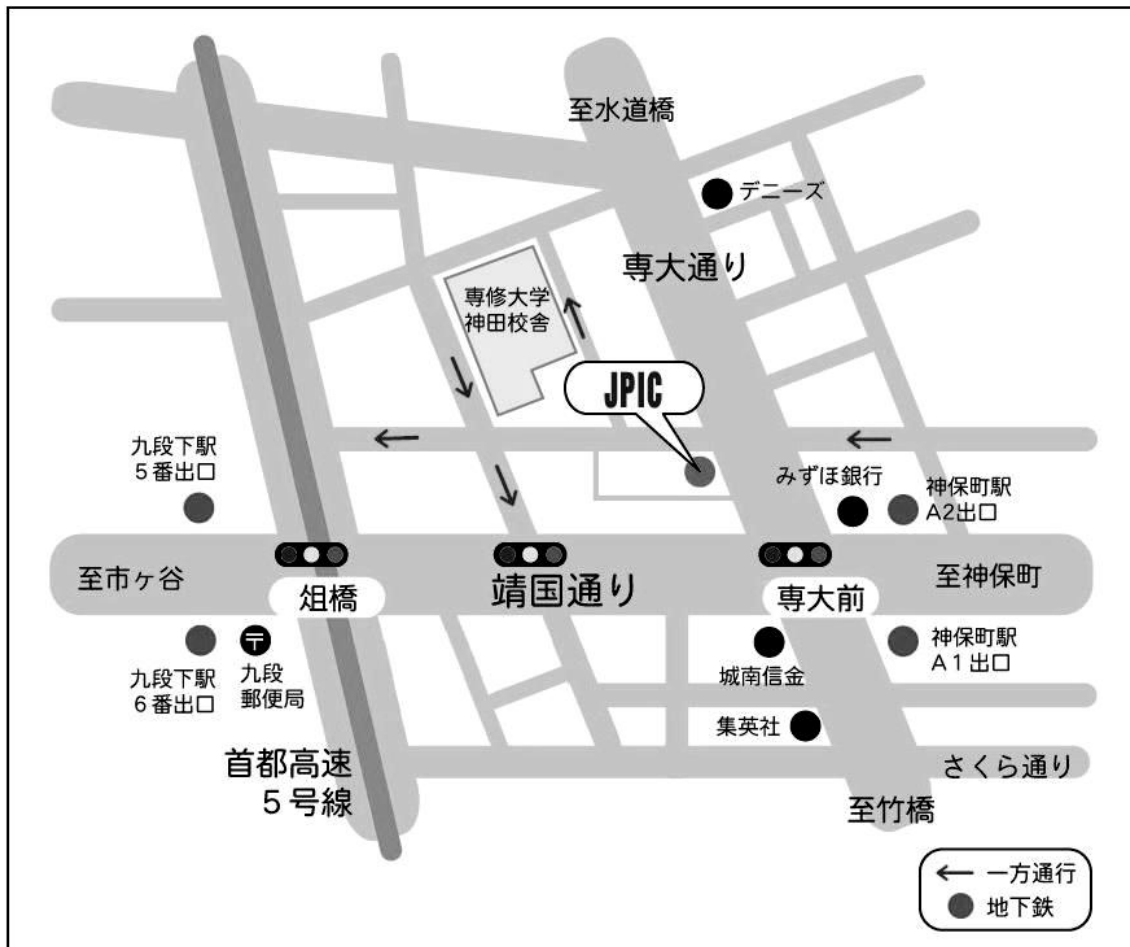
スケジュール3

スケジュール4

スケジュール5

財団案内図

- 名 称 一般財団法人出版文化産業振興財団
- 所 在 地 〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3 神保町スリービル 8 階
TEL.03-5211-7282 FAX.03-5211-7285
<http://www.jpica.or.jp/>



交 通

九段下駅 6 番出口 徒歩 5 分（地下鉄／半蔵門線・東西線 都営／新宿線）

神保町駅 A1 出口 徒歩 2 分（地下鉄／半蔵門線 都営／新宿線・三田線）

水道橋駅 西 出 口 徒歩 7 分（JR／総武線・中央線）

※ 1 階が CVS「サンクス」のビルです。

一般財団法人出版文化産業振興財団 理事・監事・顧問

理 事 長	肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）
副理事長	相 賀 昌 宏（日本書籍出版協会理事長、小学館社長）
副理事長	鹿 谷 史 明（日本雑誌協会理事長、ダイヤモンド社会長）
副理事長	平 林 彰（日本出版取次協会会長、日本出版販売社長）
副理事長	船 坂 良 雄（日本書店商業組合連合会会長、東京都） ※運営担当
専務理事	小 柳 貴 史
常務理事	野 間 省 伸（講談社社長）
常務理事	堀 内 丸 恵（集英社社長）
常務理事	安 西 浩 和（日本出版販売専務取締役）
常務理事	藤 井 武 彦（トーハン社長）
常務理事	高 井 昌 史（紀伊國屋書店会長兼社長）
常務理事	西 村 俊 男（日書連副会長、新潟県）
理 事	北 島 義 斉（大日本印刷副社長）
理 事	中 尾 光 宏（凸版印刷上席執行役員）
理 事	荻 野 善 之（主婦の友社社長）
理 事	丹 下 伸 彦（光文社社長）
理 事	古 岡 秀 樹（学研ホールディングス取締役）
理 事	松 井 清 人（文藝春秋社長）
理 事	磯 田 肇（協和出版販売社長）
理 事	大 竹 深 夫（大阪屋栗田社長）
理 事	加 藤 悟（中央社社長）
理 事	川 上 浩 明（トーハン専務取締役）

理 事	渡 部 正 嗣（日教販社長）
理 事	亀 井 忠 雄（三省堂書店社長）
理 事	中 川 清 貴（丸善 CHI ホールディングス社長）
理 事	早 嶋 茂（旭屋書店社長）
理 事	藤 原 直（日書連副会長、宮城県）
理 事	松 信 裕（有隣堂社長）

以上 28 名

監 事	桶 田 大 介（弁護士）
監 事	能 勢 正 幸（公認会計士）
監 事	濱 田 博 信（日本図書普及社長）

以上 3 名

並びは、業態別・個人名50音順

平成 29 年 3 月 31 日現在

一般財団法人出版文化産業振興財団 評議員

秋田 貞美（秋田書店最高顧問）

石 崎 孟（マガジンハウス社長）

石 野 栄一（明日香出版社社長）

大 塚 茂（世界文化社専務取締役）

大 橋 一 弘（博文館新社社長）

奥 村 傳（ポプラ社会長）

小 泉 公 二（NHK出版社長）

小 峰 紀 雄（小峰書店社長）

斎 藤 健 司（日本書籍出版協会常任理事 読書推進委員会委員長、金の星社社長）

清 水 康 史（昭文社取締役）

鈴 木 一 行（大修館書店社長）

高 杉 昇（家の光協会代表理事専務）

高 納 勝 寿（主婦と生活社社長）

平 野 健 一（徳間書店社長）

松 田 宏（新潮社取締役相談役）

宮 本 哲 男（岩波書店取締役）

山 下 直 久（KADOKAWA常務執行役員）

山 本 憲 央（中央経済社ホールディングス社長）

出版社：以上 18 名

岩 本 幸 子（日本出版販売管理部労務課マネジャー）

大 谷 敏 夫（中央社常務取締役）

小 野 田 裕（日教販取締役）

加藤真由美（トーハン広報室長）

齊 藤 貴（トーハン雑誌部長）

齊 藤 隆 巳（日本雑誌販売社長）

鈴 木 一 則（日本出版販売マーケティング本部マネジャー）

森 岡 忠 弘（大阪屋栗田執行役員）

三 浦 敏（協和出版販売常務取締役）

取次会社：以上9名

江 崎 直 利（日書連理事、静岡県）

大 垣 守 弘（大垣書店社長）

小 林 洋（日書連理事、東京都）

田 江 泰 彦（今井書店グループ社長）

田 島 敏 幸（日書連理事、東京都）

書店：以上5名

石 川 博 史（公文教育研究会常務取締役）

一般：以上1名

以上33名

並びは、業態別・個人名50音順

平成29年3月31日現在

平成 28 年度賛助会員(273 社)

平成 29 年 3 月 31 日現在

出版社

あかね書房
秋田書店
朝倉書店
朝日新聞出版
明日香出版社
飛鳥新社
あすなろ書房
アリス館
家の光協会
医学書院
池田書店
医歯薬出版
一声社
1 万年堂出版
今人舎
岩崎書店
岩波書店
WAVE 出版
潮出版社
樺出版
NHK 出版
エムオン・エンタテインメント
旺文社
大泉書店
宙出版
オーム社
オレンジページ
音楽之友社
海竜社
化学同人
学研ホールディングス
風間書房
KADOKAWA
角川春樹事務所
金子書房
河出書房新社
かんき出版
協同出版

共立出版
金の星社
くもん出版
研究社
建帛社
コアミックス
好学社
恒星社厚生閣
佼成出版社
講談社
交通新聞社
交通タイムス社
光文社
小峰書店
ゴルフダイジェスト社
さ・え・ら書房
作品社
産業図書
三オブックス
三省堂
サンマーク出版
産労総合研究所経営書院
CQ 出版
ジェイ・リサーチ出版
実業之日本社
実務教育出版
じほう
集英社
住宅新報社
主婦と生活社
主婦の友社
小学館
祥伝社
少年画報社
少年写真新聞社
昭文社
神宮館
新興出版社啓林館
新星出版社

新潮社
晋遊舎
鈴木出版
スターツ出版
ステレオサウンド
すばる舎
星雲社
聖教新聞社
静山社
青春出版社
西東社
成美堂出版
聖パウロ女子修道会
誠文堂新光社
税務研究会
世界思想社教学社
世界文化社
セブン&アイ出版
創元社
増進堂・受験研究社
第三文明社
大修館書店
大日本図書
ダイヤモンド社
大洋図書
大和出版
大和書房
高橋書店
竹書房
辰巳出版
玉川大学出版部
淡交社
筑摩書房
地人書館
チャイルド本社
中央経済社ホールディングス
中央公論新社
中日新聞社広告局
汐文社

デアゴスティーニ・ジャパン
ディスカヴァー・トゥエンティワン
東京書籍
東京大学出版会
東京堂出版
東京ニュース通信社
童心社
東洋経済新報社
徳間書店
ドレミ楽譜出版社
南江堂
南山堂
二玄社
二宮書店
日本ヴォーグ社
日本カメラ社
日本漢字能力検定協会
日本経済新聞出版社
日本実業出版社
日本スポーツ企画出版
日本文芸社
農山漁村文化協会
白水社
白泉社
博文館新社
博友社
ぴあ
PHP 研究所
ビーエル出版
ひかりのくに
ひさかたチャイルド
日之出出版
白夜書房
評論社
フォレスト出版
福音館書店
富山房
扶桑社
双葉社

ブティック社	日本出版貿易	神奈川県教科書販売	日本出版取次協会
プレジデント社	博文社	愛知県教科書商業協同組合	日本書店商業組合連合会
フレーベル館	(取次会社 12 社)	(教科書供給 4 社)	(関係団体 4 団体)
文英堂			
文化学園文化出版局	書店	一般	以上、273 社
ぶんか社	旭屋書店	インテージテクノスフィア	
文溪堂	今井書店グループ	NTT アド	出版社 187 社
文芸社	大垣書店	オー・アイ・エム・センター	取次会社 12 社
文藝春秋	オリオン書房	お茶の水商事	書店 12 社
文理	紀伊國屋書店	活字文化推進会議	書店組合 19
平凡社	金港堂	カンダコーポレーション	教科書 4
ベースボール・マガジン社	三省堂書店	共同印刷	一般 35
ベストセラーズ	須原屋	共立速記印刷	関係団体 4
ベネッセコーポレーション	八文字屋	近代美術	
ベレ出版	丸善ＣＨＩホールディングス	工藤出版サービス	
法研	有隣堂	光和コンピューター	
芳文社	リプロ	齋藤商店	
ポプラ社	(書店 12 社)	出版共同流通	
ほるぷ出版		生命保険協会	
毎日新聞社出版局	書店組合	総合教育センター	
マガジンハウス	北海道書店商業組合	大日本印刷	
三笠書房	青森県書店商業組合	太陽印刷工業	
みすず書房	岩手県書店商業組合	ダイワハイテックス	
光村教育図書	宮城県書店商業組合	手島梱包輸送	
ミネルヴァ書房	茨城県書店商業組合	天龍運輸	
モーターマガジン社	栃木県書店商業組合	電通	
有斐閣	群馬県書店商業組合	東販自動車	
吉川弘文館	埼玉県書店商業組合	トーハン従業員組合	
リイド社	神奈川県書店商業組合	凸版印刷	
リクルートコミュニケーションズ	愛知県書店商業組合	日販コンピュータテクノロジー	
理論社	滋賀県書店商業組合	日本アド	
ワニマガジン社	京都府書店商業組合	日本出版販売労働組合	
(出版社 187 社)	大阪府書店商業組合	日本図書普及	
取次会社	兵庫県書店商業組合	博報堂	
大阪屋栗田	広島県書店商業組合	藤川紙業	
協和出版販売	愛媛県書店商業組合	文化産業信用組合	
鯉谷書店	福岡県書店商業組合	三井住友銀行神田法人営業第一部	
三和図書	佐賀県書店商業組合	三菱東京 UFJ 銀行神田支店	
中央社	沖縄県書店商業組合	八木書店	
東京即売	(書店組合 19 組合)	りそな銀行九段支店	
トーハン		(一般 35 社)	
日教販	教科書供給所	関係団体	
日本雑誌販売	北海道教科書供給所	出版健康保険組合	
日本出版販売	群馬県教科書特約供給所	日本児童図書出版協会	

平成 28 年度収支報告書及び財産目録

貸借対照表

正味財産増減計算書1

正味財産増減計算書2

正味財産増減計算書3

財産目録

収支計算書1

収支計算書2

収支計算書3

収支計算書4

財務諸表に関する注記1

財務諸表に関する注記**2**、収支計算書に対する注記**1**

公益目的支出計画

監査報告書

平成 29 年度事業計画並びに予算

1. 生涯学習事業

①「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

平成5年のスタート以来、「読書と生涯学習をコーディネートする」人材の育成を目的に毎年開講している。第25期を受講生100名、修了聴講生若干名で開講する。

②JRACの活動協力

修了者の自主運営組織である「JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）」の活動を側面よりサポートする。学習会や読書関連催事の共催も検討する。

③絵本・読みきかせ・読書ボランティア・中高生向け 各種読書講習会

「JPIC 読みきかせサポーター講習会」、「JPIC 読みきかせサポーター実践講座」、10代向け読書会「作者と語ろう！」など計23回を計画。子どもゆめ基金助成事業。

④さまざまな層への読書アプローチ

- ・「辞書プロジェクト」として、辞書を切り口とした読書推進事業を関係各社とともに展開。子どもゆめ基金助成事業としてイベントを開催予定。
- ・10代20代学生に読書機会を提供する JPIC YOUTH として、「10代から始めるリベラルアーツ」「作者と語ろう！ オーサー・ビジット校外編」（ともに子どもゆめ基金助成事業）を開催予定。
- ・主に JPIC 読書アドバイザーと協力した新たな読書推進活動の取り組みを検討する。

2. 調査研究事業

①書店活性化・デジタル化研究

関係省庁・団体などとの協力で、JPIC としての役割を積極的に果たす。また、消費税増税対応の販売促進策等を提案する。

②関係機関や在日外国機関との協力事業

消費税軽減税率獲得への取り組みや、対諸外国向けの出版活動の展開について検証、実践を目指す。

3. 情報提供事業

①JPIC NEWS LETTER

賛助会員をはじめ、関係各方面に JPIC の活動を案内・報告することを目的に、月1回程度発行。

②ホームページ運用、メールマガジン発行

読書関連催事等の情報提供ツールとして活用。メールアドレス管理「読書ボランティア」13,000 件を目標に促進。メルマガ会員を増加させ、他事業での DM 費の一層の減少を図る。

③「この本読んで！」発行

平成 13 年 11 月創刊、季刊（第 63～66 号、5・8・11・2 月末）、9,500 部発行。

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

福島県飯舘村、大阪市東淀川区等での協力事業を展開する。

また、「読書教育」「本・読書で町おこし」などの地域ぐるみの読書活動をサポートしていく。

②「上野の森 親子フェスタ」の開催

「上野の森 親子フェスタ 2017」を関係主催団体とともに、運営委員会を組織して開催する。

③「書店大商談会」への協力

第四回「北海道書店大商談会」（9 月 5 日、札幌市にて開催予定）、第八回「書店大商談会」（10 月 26 日、文京区にて開催予定）、「BOOK EXPO 2017」（11 月 7 日、大阪市にて開催予定）の事務局として協力。

④東日本大震災復興協力事業

JPIC として、継続的に東日本大震災の支援活動を実施する。

5. 受託事業・業務等

①各社・団体の読書普及事業への協力

「講談社全国訪問おはなし隊」など、団体・企業の読書推進への協力、各種催事での図書販売 など。

②「スミセイおはなしひろば」への協力

平成 24 年度に全国一巡を完了。2 巡目、2 地域／京阪地区（大阪府・京都府）一部地域、埼玉県一部地域での実施。

③朝日新聞 読書推進事業への協力

朝日新聞社が主催する「オーサー・ビジット」（今年度は 6 回開催）「地球教室」などに協力。

⑤第 51 回「造本装幀コンクール」への協力

日本書籍出版協会と日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」に協力する。

⑥生命保険協会「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」への協力

生命保険協会公益事業「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」の新たな 3 ヶ年計画の 1 年目として、読みきかせ講習会の開催に加え、「家族で楽しむ絵本とあそび」の配布等、読みきかせボランティアの支援を続ける。

⑦「21 世紀活字文化推進プロジェクト」協力

読売新聞社が主管する「21 世紀活字文化プロジェクト」に協力する。大学生を中心とした、青年層への活字文化推進活動で協力を検討。

⑧内閣府平成 29 年度国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力

26 年度に開始した、＜日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業＞に協力する。今年度は 15 タイトル程度を発行予定。

収支予算書1

収支予算書2

収支予算書3

収支予算書4

定 款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般財団法人出版文化産業振興財団（英文名 Japan Publishing Industry Foundation for Culture。略称「JPIC」）と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

2 この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 この法人は、出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進、出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究、人材育成、情報の収集及び提供等を行うことにより同産業の振興を図るとともに、読書活動の推進をはかることにより、我が国経済社会の健全な発展・国民の生活文化の向上・青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 この法人は、前条の目的に資するため、次の事業を行う。

- (1) 出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進
- (2) 出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究
- (3) 出版文化産業及び読書活動に関する人材育成
- (4) 出版文化産業及び読書活動に関する情報収集及び提供
- (5) 出版文化産業及び読書活動に関する内外関係機関等との交流及び協力
- (6) 前各号に掲げるもののほか、本財団の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。

第3章 資産及び会計

(資産の構成)

第5条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産は、この法人の基本財産とする。

2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を得なければならない。

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事業報告及び決算)

第7条 事業報告書及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

2 前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに、定款を主たる事務所に備え置くものとする。

3 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

第4章 評議員

(評議員)

第8条 この法人に評議員30名以上40名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第9条 評議員の選任及び解任は、評議員会の決議をもって行う。

(任期)

第10条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

3 第8条に定める評議員の員数が欠けた場合には、任期の満了又は辞任により退任した評議員は、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬)

第11条 評議員の報酬は、無報酬とする。

第5章 評議員会

(構 成)

第 12 条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権 限)

第 13 条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
- (4) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分又は除外の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開 催)

第 14 条 この法人の評議員会は、定時評議員会及び臨時評議員会とする。定時評議員会は、毎事業年度の終了後 3 ヶ月以内に開催し、臨時評議員会は、必要に応じて開催する。

(召 集)

第 15 条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が召集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び召集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決 議)

第 16 条 評議員会の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の 3 分の 2 以上に当たる多数を持って行う。

- (1) 監事の解任
- (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (3) 定款の変更
- (4) 基本財産の処分又は除外の承認
- (5) その他法令で定められた事項

(決議の省略)

第 17 条 理事が、評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があ

ったものとみなす。

(報告の省略)

第 18 条 理事が、評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

(議事録)

第 19 条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、議長並びに出席評議員及び理事の各 1 名がこれに記名押印するものとする。

第 6 章 役員等

(役 員)

第 20 条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 20 名以上 30 名以内
 - (2) 監事 3 名以内
- 2 理事のうち 1 名を理事長とし、4 名を副理事長、1 名を専務理事、6 名を常務理事とし、2 名以内を業務執行理事とすることができる。
- 3 前項の理事長をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

(役員を選任)

第 21 条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び、副理事長、専務理事、常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 91 条第 1 項第 2 号に定める業務執行理事は理事会の決議によって理事の中から選定し、うち 1 名は専務理事とする。

(理事の職務及び権限)

- 第 22 条 理事は理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、この法人を代表し、法人の業務を執行し、専務理事及びその他の業務執行理事は、理事会において別の定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長、専務理事及びその他の業務執行理事は、毎事業年度に 4 ヶ月を超える間隔で 2 回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第 23 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第 24 条 理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとする。

4 理事又は監事は、第 20 条に定める定数に足りなくなるときは、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員改選)

第 25 条 理事及び監事が次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

第 26 条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

(役員損害賠償責任の免除)

第 27 条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 114 条第 1 項の規定により、理事又は監事が任務を怠ったことによる損害賠償責任を、法令に規定する額を限度として理事会の決議により免除することができる。

(外部役員責任限定契約)

第 28 条 この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 115 条第 1 項の規定により、外部理事又は外部監事との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任の限定契約を締結することができる。

なお、責任の限度額は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 113 条第 1 項の規定による最低責任限度額とする。

(顧問)

- 第 29 条 この法人に、顧問 5 人以内を置くことができる。
- 2 顧問は、学識経験者又はこの法人に功労のあった者のうちから、理事会の推薦により、理事長が委嘱する。また解任については理事会において決議する。
- 3 顧問は、この法人の運営に関して理事長の諮問に答え、又は理事長に対して意見を述べる。
- 4 顧問の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 5 顧問の報酬は無償とする。
- 6 顧問の選任及び解任は、理事会において決議する。

第 7 章 理事会

(構 成)

- 第 30 条 理事会は、すべての理事で構成する。

(権 限)

- 第 31 条 理事会は、次に掲げる職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(召 集)

- 第 32 条 理事会は、理事長が招集する。
- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
- 3 理事会を招集する者は、理事会の日時、場所、目的、その他必要な事項を記載した書面をもって、理事会の日の 1 週間前までに、各理事及び各監事に対してその通知を発しなければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、召集の手続きを経ることなく開催することができる。

(議 長)

- 第 33 条 理事会の議長は、理事長とする。

(決 議)

- 第 34 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 197 条において準用する同法第 96 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があ

ったものとみなす。

(決議の省略)

- 第 35 条 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなすものとする。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(報告の省略)

- 第 36 条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知した場合においては、その事項を理事会に報告することを要しない。
- 2 前項の規定は、第 22 条第 3 項の規定による報告には適用しない。

(議事録)

- 第 37 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

- 第 38 条 この法人は、評議員会の決議によって定款を変更することができる。
- 2 前項の規定は、この定款の第 3 条、第 4 条及び第 9 条についても適用する。

(解 散)

- 第 39 条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由により解散する。
- 2 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

- 第 40 条 この法人の公告方法は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法とする。

第 10 章 事務局

(事務局)

第 41 条 この法人に事務局を置く。事務局の組織及び運営に関して必要な事項は理事会で定める。

第 11 章 雑 則

(委 任)

第 42 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登記を行ったときは、第 6 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 この法人の設立当初の事業年度は、第 6 条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 25 年 3 月 31 日までとする。
- 4 この法人の最初の理事長は肥田美代子とする。
- 5 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

秋田貞美	坂井宏先	江崎直利
柳楽節雄	斎藤健司	田江泰彦
井上一夫	齊藤隆巳	片岡 隆
今村正樹	伊藤 聡	小泉忠男
関谷幸一	谷川直人	亀井忠雄
高納勝寿	加藤真由美	石川博史
清水康史	金田 徹	北島義斉
増田義和	岩本幸子	大湊 満
大塚 茂	和田年正	濱田博信
鈴木一行	森岡忠弘	
鹿谷史明	外山義朗	
岩渕 徹	山去賢二	
溝口明秀	土屋正三	
伊藤富士男	川島孝文	
大橋一弘	筒井正博	

禁無断転載

平成 29 年 6 月

発 行 一般財団法人出版文化産業振興財団
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3

電 話 03 (5211) 7282

印 刷 太陽印刷工業株式会社